

# 阿南市誕生 伸びゆく阿南



▲庁舎が新築されるまで、市役所として使用されていた旧富岡町役場（現在の阿南信用金庫本店付近）

## 昭和33年5月1日 市制施行

昭和33（1958）年5月1日、富岡町と橘町が合併し、県下4番目の市として阿南市が誕生しました。合併の話がもち上がった以来、幾多の曲折を重ねてきただけに、新市誕生の喜びはひとしおでした。

当時の人口は6万2374人、面積は250.9平方キロメートルで、面積は県下第一、人口では徳島市に次ぐ県下第二の都市として歩み始めます。初代市長には、富岡町長であった澤田紋氏が就任しました。

財政の確立と市発展の基盤となる工場誘致こそが百年の大計である――。

県南の中核都市としての役割を果たし、堅実に発展を遂げるため、市政の最重要課題に、市発足当時の赤字の解消を実現したのです。

## 新産業都市指定 押し寄せる近代化の波

東京オリンピックを目前に控えた昭和39年1月、阿南市を含む県内4市11町村が新産業都市に指定され、市内はお祝いムード一色となりました。新たな飛躍・発展の足掛かりを得た阿南市は、ここから工業開発を中心とした近代化が急速に進展していきます。

工場誘致と合わせて港湾や工業用水道、道路などの産業・都市基盤整備が進められ、国道55号は、県南に通じる最重要路線として昭和38年頃から拡張されていきました。一方、工業化や産業の発展

として取り組んだのが、財政の健全化と企業誘致を中心とする成長政策でした。

昭和31年に公表された「経済白書」で、政府は「もはや戦後ではない」と新しい時代の訪れを告げ、日本経済が本格的な高度成長の軌道に乗る中で、新市の抱く夢は大きいものがありました。

## 財政再建団体からの脱却

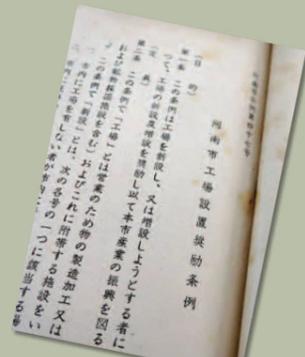
合併以前の昭和30年度末における富岡町、橘町の一般会計の赤字額は、1億円を超えていました。両町は、「地方財政再建促進特別措置法」の手続を経て、昭和31年に再建団体の指定を受けます。その適用は新市にも引き継がれました。

財政再建という重荷を背負っての船出となった阿南市。財政運営に制限を受ける中、いち早く取り組んだのが、

を支える経済界の母体づくりや人材育成のための社会的環境整備が進められました。昭和37年4月、県立阿南工業高等学校が開校。その翌年には、市長を先頭に、国・県の関係者による熱心な誘致活動が実を結び、国立阿南工業高等専門学校が開校し、2つの高等工業教育機関が新設されます。

また、同じ年に阿南商工会議所が設立され、翌年には、桑野町に県立阿南職業訓練所が開設しました。まちの近代化が進展する中、市民生活を支える施設の充実も図られます。

昭和38年、旧富岡東高等学校跡地にスポーツセンターが完成。昭和41年には市役所新庁舎が完成し、市役所周辺は、



▲昭和34年8月に操業を開始した神崎製紙(株)富岡工場

「工場設置奨励条例」の制定をはじめとする工業開発、すなわち企業誘致を中心とする成長政策でした。誘致工場がもたらす雇用の創出と財政収入の増加に大きな期待をかけたのです。

市は、この条例制定を機に工場誘致活動を精力的に推進し、昭和30年代には豊益町への神崎製紙(株)富岡工場、橘町幸野への四国電力(株)新徳島発電所、40年代には、日本電工(株)徳島工場などの誘致に成功します。

さらに、総事業費200億円に達する橘湾一帯の大臨海工業地帯構想を打ち立てるなど、新産業都市の指定を視野に入れた取組へと発展していきます。

この間、チリ地震による津波や第二室戸台風による甚大な被害を受けましたが、この苦難を市民とともに乗り越え、目標としていた昭和40年

警察署、保健所、公共職業安定所などが建ち並ぶ、新たな官公庁街が形成されました。また、文化、芸術、生涯学習活動も盛んになりました。市民の文化活動の盛り上がりを受け、昭和49年に市民会館がオープン。昭和56年には、3万冊の図書を描えて市立図書館が開館しました。

## 脚光を浴びる観光都市

海と山の景観を兼ね備える阿南市は、観光都市としても大きく脚光を浴びるようになります。

昭和39年、淡島海岸を起点に蒲生田岬を経て室戸岬に至る延長約200キロメートルの海岸一帯が「室戸阿南海岸国定公園」として指定され、昭和42年には見能林町から津峯山8合目までの有料道路「津峯スカイライン」が開通します。当時は、観光事業が近代産業の花形として大きくクローズアップされた時代で、国定公園の指定は、豊かな自然とすばらしい景観を誇る阿南市の知名度向上や観光振興に大きく寄与するものでした。



▲国道55号を駆け抜ける聖火ランナー（宝田町付近）



▲津波で押し流された路線バス（橘町鶴付近）



▲旧富岡東高等学校跡地に建設された市役所庁舎とスポーツセンター



▲開校後に行われた入学式（阿南工業高等専門学校）



▲県内で初めて民間によって整備された有料道路「津峯スカイライン」